授業コード：2220800

授業科目	保育の心理学Ⅱ					単位	1
履　　修	選択	関連資格	保育士			ナンバリング	WE21609J
開講年次	3 年	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP2-2 DP3-2 DP5-2		
担当教員	水貝　洵子						
授業概要	子どもの発達や学びの過程を保育と関連付けながら学習していく。 発達心理学の基礎知識をもとに、より保育実践に関する理解を深めるとともに、事例を用いたディスカッションやグループワークを通し、保育実践における発達援助の在り方を検討する。						
学生が達成すべき行動目標	1.保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解し、説明することができる。 2.子どもの体験や学びの過程における子ども理解のための基本的な考え方を学び、説明することができる。 3.子どもを理解するための具体的な方法を説明することができる。 4.子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本を学び、獲得する。						

達成度評価

評価と評価割合／評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	40		60	0	0	0	100	
知識・理解（DP1-1）								
知識・理解（DP1-2）	20		5				25	
知識・理解（DP1-3）								
知識・理解（DP1-4）								
思考・判断（DP2-1）	10		15				25	
思考・判断（DP2-2）			10				10	
関心・意欲（DP3-1）								
関心・意欲（DP3-2）			20				20	
態度　　　　（DP4-1）								
態度　　　　（DP4-2）								
態度　　　　（DP4-3）								
技能・表現（DP5-1）								
技能・表現（DP5-2）	10		10				20	
技能・表現（DP5-3）								

具体的な達成の目安

理想的レベル	標準的なレベル
子どもを適切に理解する視点や基本的な考え方を身につけ、的確に説明することができる。 子ども一人ひとり発達状況や課題を理解し、有効な援助の在り方を検討することが出来る。 発達援助の方法について、専門的知識に基づきつつ創造的に考え、今後の実践に役立たせることができる。	子どもを適切に理解する視点や基本的な考え方を身につけ、的確に説明することができる。 子ども一人ひとり発達状況や課題を理解し、有効な援助の在り方を検討することが出来る。

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)

1	テーマ：オリエンテーション 今後の授業の流れについて説明を行う。また、保育における子どもの理解がどういったものか、子ども理解の意義について解説を行う。	講義	該当箇所の復習	30
2	テーマ：子どもの実態に応じた発達や学びの把握 子ども理解に基づいた保育実践がどのように展開されるか全体的な解説を行う。また、共感的な理解がどのように子どもとの関わりに反映されるか等、事例の紹介と解説を行う。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
3	テーマ：子どもを理解する視点① 基本的な生活習慣の獲得や遊びを通じ、子どもがどのようなことを学び、背景にはどういった発達プロセスが考えられるのか、ワークやディスカッションを通しながら、検討していく。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
4	テーマ：子どもを理解する視点② 保育の人的環境として保育者の存在や関りを取り上げ、ワークやディスカッションを通し、子どもの発達に与える影響について検討していく。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
5	テーマ：子どもを理解する視点③ 子ども相互の関わりが生まれるきっかけや、かかわりが継続、展開していくための保育者の役割について、ワークやディスカッションを通し、検討していく。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
6	テーマ：子ども理解する視点④ 集団の発達段階について解説を行い、保育における子どもの集団の成立や変化、そこでの子どもの経験について、ワークやディスカッションを通し検討していく。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
7	テーマ：子どもを理解する視点⑤ 子どもの発達に影響を与える保育の環境にはどのようなものが含まれ、どのように子どもの発達と関連していくか、解説を行う。また、環境の変化が子どもに与える影響についても、ワークやディスカッションを通し検討していく。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
8	テーマ：子どもを理解する視点⑥ 子どもの発達上のつまづきをどのように捉えて理解していくかや、どのように発達援助につなげていくかについてワークやディスカッションを通し検討していく。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
9	テーマ：子どもを理解する方法① 子ども一人ひとりのおかれた状況や発達をどのように理解していくか方法について解説を行い、それぞれの方法における長所や限界について、ワークやディスカッションを通し検討していく。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
10	テーマ：子どもを理解する方法② 子どもを理解する方法のうち、職員間での対話や保護者との情報共有を取り上げ、どのような対話が子どもの発達援助に有効な協同関係を築けるのか、ワークやディスカッションを通し検討していく。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
11	テーマ：子どもの理解に基づく発達援助① 子どもの発達課題に応じた援助と関わりの在り方について、事例の提示（例題事例や、経験した事例の振り返り）を行い、ワークやディスカッションを通し有効な援助について検討していく。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
12	テーマ：子どもの理解に基づく発達援助② 子どもの発達課題に応じた援助と関わりの在り方について、事例の提示（例題事例や、経験した事例の振り	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60

	返り）を行い、ワークやディスカッションを通し有効な援助について検討していく。			
13	テーマ：子どもの理解に基づく発達援助③ 特別な配慮を要する子どもへの理解と発達援助の在り方について、事例の提示（例題事例や、経験した事例の振り返り）を行い、ワークやディスカッションを通し有効な援助について検討していく。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
14	テーマ：子どもの理解に基づく発達援助④ 特別な配慮を要する子どもへの理解と発達援助の在り方について、事例の提示（例題事例や、経験した事例の振り返り）を行い、ワークやディスカッションを通し有効な援助について検討していく。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
15	テーマ：発達の連続性と就学への支援 就学前の保育から小学校教育へと移行する幼少接続期を取り上げ、子どもや保護者が経験する戸惑いなどについて解説し、保育から小学校教育へとつないでいく支援の在り方や課題について検討する。	講義・ディスカッション	該当箇所の復習	60
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	発達心理学の基礎知識を有していること。
テキスト	適宜資料を配布する。

参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	「保育の心理学―子どもの心身の発達と保育実践―」 福沢周亮（監修） 藪中征代・星野美穂子（編） 教育出版 「保育の心理学Ⅱ」 公益財団法人 児童育成協会（監修） 清水益治・森俊之・杉村伸一郎（編） 中央法規
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	ディスカッションやグループワークを用いながら授業を進めていくため、積極的な参加が求められる。 また、これまで実習等で関わった子どもの事例を積極的に振り返りながら授業を進めるため、各自で事例の振り返りをしておくことが望ましい。
達成度評価に関するコメント	試験およびレポート、グループワークのテーマについては、授業の中で指示をおこなう。